

令和4年度 事業活動報告

令和4年度も新型コロナウイルスに翻弄された一年となりました。やっちく会においても各事業所での感染が数名確認され、勤務者の確保や感染対策の在り方、感染後の対応など、BCPについて考えさせられた一年となりました。スタッフも感染の恐怖に苛まれながらも利用者様の「豊かなくらし」を守る務めを果たすために、エッセンシャルワーカーとしての誇りと責任をもって常に高い緊張感の中で試行錯誤を繰り返してまいりました。

このような状況の中、入所系事業所全般に於いては、利用者の高齢化及び重度化により入院等が多く発生することとなり、また在宅にて入所待ちの方々も医療を必要とされる方が増加し、スムーズな入所がより一層厳しい状況となり、結果空床ベッドを多く抱えてしまいました。

短期入所生活介護事業については近隣にて新型コロナウイルス感染が確認され、受け入れの一時停止など利用者確保及び受け入れ態勢の方策が整わず稼働率が減少となりましたが、まごころショートに於いては、居宅、医療機関、家族と連携し稼働率を上げております。

通所介護事業・居宅介護支援事業は、新型コロナウイルス感染の余波を受けながらも日々のサービス内容を工夫し、昨年度に近い稼働率を達成することが出来ました。

児童福祉事業におきましては、厳しい少子化の中ではありますが、SNS等をフルに活用してみどり保育園の活動や魅力を日々発信し、様々な手法を取り入れながら、稼働率を上げております。既存のウェブページをさらに魅力的なものにし、送迎バスの活用もフルに行い、曾於市にまで送迎範囲を広げさらに園児の確保に努めていきたいと考えております。

利用者の確保だけでなく職員の確保についても、やっちく会の安定的な運営を考えるうえで避けることの出来ない喫緊の課題と考えます。職員確保への取り組みについては、今後地元高校や専門学校への積極的なアプローチを行い、またやっちく職員による職員紹介制度を推進し、さらに魅力的なSNS等を検討し、より積極的な方策の展開が必要と考えます。

外国人技能実習生については、開始前は非常に懸念しておりましたが、まごころ園、やっちく共に順調に業務を遂行しております。

私たち社会福祉法人松山やっちく会が、この地域になくてはならない存在であり続けるために、これまで以上に公益的な取り組みの実施、地域に根差した地道な取り組みや活動が必要になってくると思われます。今後も各事業所で、やっちく会の一員としての自覚を強く持ち、多様化するニーズに柔軟に対応し、常に利用者視線に立ったサービスが行えるよう研鑽を重ねていく必要があります。今後も利用者様に生きがいを持って生活していただけるよう支援していくことがやっちく会に与えられた使命と考え、地域福祉推進の中核団体であることを強く自覚し、職員一丸となって事業運営に邁進していきたいと考えます。